

「土砂災害から身を守るために」

福井県 大野市有終西小学校 5年 ぜにい 喜入 錢井 きいれ

大雨のニュースを見ていた時におじいちゃんが、昔大野でも大雨で大きな被害があったと教えてくれました。どのような災害だったかインターネットで調べてみました。

昭和40年9月に旧西谷村、現在の大野市西谷地区を中心にした集中豪雨によって山崩れや土石流などの土砂災害が起きたり、河川の氾濫が起きたりしたそうです。そして旧西谷村では村の約7割の家が流されたり埋まったりして村はなくなってしまいました。

そのようなことがあって大野市ではさまざまな対策を行いました。

対策の1つが、ダム建設です。ダムに水を貯めて、少しずつ流すことで河川の氾濫を防ぐことができます。

他にも大雨によって崩れ出した土砂と雨水で起きる土石流から人や家を守る砂防えん堤というダムがあることを知りました。コンクリートで造られた大きな壁のようなもので、流れてきた土砂をせき止めることができます。山の中にたくさん造られており、土砂災害からわたしたちを守ってくれています。

対策の2つ目が災害への備えや自主避難所の開設です。自主避難所は災害が発生した時や、避難指示が出る前に住民が自らの判断で避難する際に利用できる施設のことです。それからみんなの家には市役所から配られたハザードマップがあります。ハザードマップにはわたしたちの住んでいる場所でどんな被害が考えられるのか、避難所はどこかとかが書いてあります。

災害はいつどこで起こるかわかりません。いつ起こってもいいように日ごろから準備しておくことが防災対策の1つになると思います。わたしは防災対策のために4つのことを考えました。1つ目はハザードマップを確認して危険な場所を知ることです。わたしの家はまちなかなので被害はないと思っていましたが、1000年に1度の確率の大雨が降ると30センチ浸水することがわかりました。土砂による被害はなさそうですが、わたしの通う小学校は土砂災害けいかい区域に入っていることがわかりました。2つ目は家族で防災会議を開くことです。家族で家の中の安全な場所、避難する場所、連絡方法などを決めます。そうすることで、家族みんながそろっていても家の安全な場所や自主避難所に避難ができます。3つ目は非常持ち出し品を準備することです。特に飲料水、食料、救急用品、ラジオ、かい中電灯、着がえ、携帯トイレなどをリュックに入れておくといいです。4つ目は地域の避難訓練に参加することです。練習をしておくことで、実際に災害が起こった時に地域の方もスムーズに避難ができます。以前、大野市の防災キャンプに参加した時に、そうじをする係や情報を伝える係、食事の準備をする係などに分かれて活動をしました。わたしはそうじ係でゴミ箱の設置を手伝いました。避難所では、避難しているみんなと協力して避難生活をしていくことが大切だと学びました。

最近では大雨だけでなく地しんでも土砂災害が多く発生しています。今回、土砂を止める砂防えん堤があることを知り安心しましたが、それだけでなく自分自身も災害に備えることで、自分の身を守りたいと思いました。